

2

接続語をつかむ

ポイント

接続語

1 接続語とは

接続語とは、ことばとことば、文と文、段落と段落の関係を明らかにしながら、前後をつなぐ働きをする「つなぎことば」のことをいいます。

2 接続語の種類

接続語は、その前後の関係を示す働きから分類すると、おおむね次のようになります。

(1) 順接の接続語：前に述べられていることが原因や理由を

あらわし、後にその結果をあらわす内容がくる関係を示す場合に用いられます。

例 だから、それで、したがって、すると、ゆえに

(2) 逆接の接続語：前に述べられていることから予想される

内容とは反対の内容が、後に続くことを示す場合に用いられます。

例 しかし、だが、けれども、ところが、が、でも

(3) 並立の接続語：前後を、同等（対等）な関係の内容で並

べていることを示す場合に用いられます。

例 また、および

(4) るい加の接続語：前のことから、新たなことがらを付

け加えることを示す場合に用いられます。

例 そして、しかも、さらに、それから、そのうえ

(5) 説明の接続語：前に述べられていることがらについて、

① その理由を説明したり、② 補足したり、③ 言いかえてまとめたりすることを示す場合に用いられます。

例 ①なぜなら、②ただし、③つまり、すなわち

(6) 選択せんたくの接続語：前に述べたことがらか、後に述べたこと

がらのごちらかであることを示す場合に用いられます。

例 または、それとも、あるいは

(7) 話題の転換てんかんをあらわす接続語：前に述べたことがら

をつたえ、別の話題や視点を変えて新たに話題を展開していくことを示す場合に用いられます。

例 ところで、さて、では、それでは

※「順接」「逆接」等の関係を表すことばは、小学校の段階では、特に覚えておく必要はありません。あくまでも、それぞれの接続語の働きを理解することが大切です。

3 接続語のつかみ方

(1) 接続語が何と何をつないでいるかを考えます。

① ことばとことばをつなぐ

② この場合、文のどちらで接続語は用いられます。

③ 文と文をつなぐ

↓この場合、文の初めに接続語は置かれます。

③ 段落と段落をつなぐ

↓この場合、段落の初めに接続語は置かれます。

(2) 接続語を適語として空所に入れる場合の考え方

(1)の「何と何をつないでいるか」をつかんだら、次に

ながり方の関係(2「接続語の種類」参照)を確かめます。つながり方の関係をしぼりこめたら、その関係を示す適切な接続語を選んだり、書いたりしましょう。

例 雨がふっていた。□、運動会は行われた。

〈考え方〉

- ① 二番目の文の先頭にあることから、空所に入ることばは文と文をつないでいることがわかります。
- ② 「雨がふっていい」れば、運動会は中止になると予想するのが当然ですが、その予想に反して「運動会は行われた」のですから、空所に入ることばは、前後の関係が「逆接」であるということを示していると考えることができます。
- ③ 適語を選択肢から選ぶ問題であれば、「逆接の接続語」を選ぶことになり、適語を書く問題であれば、「逆接の接続語」のおもなもの(例えば、「しかし」など)を書くということになります。

確認問題

1 次のそれぞれの文章の□に入るふさわしいことばをあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) 雨がふってきた。□、運動会は中止になった。
- (2) 雨がふってきた。□、運動会は続けられた。
- (3) 雨がふってきた。□、風もふいてきた。
- (4) 運動会は中止にしますか。□、続けますか。

- (5) 運動会は中止にします。□、雨がふってきたからです。
- (6) 運動会は中止にします。□、パン食い競走が終わってからにします。
- (7) 運動会は中止になった。□、続きはいつやるのだろう。

- ア ところでは
- イ しかし
- ウ それとも
- エ なぜなら
- オ だから
- カ そのうえ
- キ ただし

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	
(6)	
(7)	

2 次のそれぞれの文章の□に入るふさわしい接続語を、考えて書いて答えなさい。

- (1) 弟はカゼをひいて三十九度近い熱が出た。□、きょう学校を休んだ。
- (2) よく晴れていて気持ちがいいね。□、きょうはぼくに何の用だい。

(1)	
(2)	

7

心情・性格をつかむ 1

ポイント

心情・性格

随筆の筆者の心の状態や心の動き、物語・小説の登場人物の心の動きを「心情」といいます。「心情」は「気持ち」といいかえることもできます。一方、筆者や登場人物の「人から」のことは「性格」とよびます。心情と性格のちがいは、心情が場面に応じて変化するのに対して、性格は変わりにくいところですが、物語中の大きなできごとの前後では登場人物の人からが変わるといえるのはよくあることなので、あくまでも程度の問題として受け止めておきましょう。

心情（気持ち）のつかみ方

- (1) 登場人物（書き手）の心情が直接表現されている部分に着目する。
- (2) 登場人物（書き手）の行動や動作、会話のことばや口調などに着目する。
- (3) 情景をえがくことによって、その場の人物の心情を重ねて表現している部分に着目する。

心情と場面の関係

- (1) 心情とできごとのつながり

心情は必ず何かあるできごととつながっているので、ある心情が生じた原因になるできごとをつかみ、その心情が次に起こるできごととどう関連していくかをつかむようにします。

- (2) 心情と情景のつながり

「心情のつかみ方」でもふれましたが、物語や小説では、しばしば登場人物の心情が、例えば、ほがらかでなやみのない気持ちを晴れた空をえがくことで表したりするように、情景の表現と重ねて表されることがあります（情景一致）。ですから、情景の表現をただの情景表現とは受け取らずに、何らかの心情の反映になっていないかを意識して、読みとり返すことを心がける必要があります。

性格（人から）のつかみ方

物語や小説の登場人物は、そのひとりひとりが、軽重の差はあっても、それぞれの持ちようによって作品中で行動しています。その持ちようとなる**性格（人から）**が、**物語の展開や主題を支えている**のです。その意味で、登場人物の性格の読みとりは、読解上ひじょうに重要な作業になります。

- (1) 登場人物（書き手）の心情が直接表現されている部分に着目する。
- (2) 登場人物（書き手）のものの見方や考え方が述べられている部分に着目する。
- (3) 登場人物（書き手）の行動や動作などから読み取れる心情に着目する。
- (4) その登場人物に対する周囲の人間の態度や言動などに着目する。

◆ ◆ 確認問題 ◆ ◆

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

叔父おじさんはいろんなことを少年に教えて呉くれた。岬みさきに生えている草の名や、鳥や虫の名を叔父さんは指さして教えた。それから部屋
のなかで、机につんだ本をひろげて、一部分を読んで聞かせたり、
わかりやすく説明して呉れたりした。叔父さんの机の上には、きち
んと折りたたんだネルの布に、古風な大きな懐中時計かいちゆうけいが置いてあつ
た。その竜頭*りゆうずは茸きのこのような形をしていた。叔父さんの声は、近くで
話しているくせに、遠くから聞こえてくるような響ひびきをもっていた。

ある日曜日、叔父さんとハゼを釣つっていたとき、少年は足をすべ
らせて、岩角いわたかどでくるぶしを切った。血がたくさん出て、半泣はんなききにな
っていると、叔父さんは岩の上から、へんに真面目まじめな声になって言
った。

「海の水につけるんだ。早く降りてつけなさい」
少年が降りてゆくのと一緒に、叔父さんも岩を降りてきた。片足
をつめたい水につっこむと、傷口きずぐちにじんとしみて、鮮紅色せんこうしきの血がゆ
らゆらと水に溶とけた。岩角に手をかけて、少年は痛みをこらえて、
じっとそれを見つめていた。頭の上から叔父さんの声こゑがした。

「そら。きれいだろ」
血あかが紅あかい煙けむりのように、揺ゆれながらぼやけていた。そして傷口から
また赤い血が、淡青たんせいの水の色いろにふき出でていた。叔父さんは身体を曲
げるようにして、それを灰色みどりの眼めでじっと眺ながめていた。①少年は俄にわ
かに、恐こわいようなかなしいような気持きもちになって、半分泣なみき声こゑでさけ
んだ。

「まだ入れとくの。まだ？」

叔父さんはその声をきくと、② 急にやさしい顔かほになって、少年を
抱だきあげた。用心ようじんしながら岩へ上あって、小屋こやまで抱だいたまま歩いて
行った。そして葉はを戸棚とだなから出して、ていねいに繻帶ほうたいをしてくれた。

(注) 竜頭 Ⅱ 時計などで、針を動かしたりするためのつまみ。

〈梅崎春生「午砲」より〉

□(1) 線①「少年は俄かに、恐いようなかなしいような気持にな
って」とありますが、それはなぜですか。その理由を次のように
まとめたとき、□に入るふさわしいことばを、二十字以内(読
点も字数に数えます)で書いて答えなさい。

□(2) 線②「急にやさしい顔になって」とありますが、なぜです
か。「我にかえり、くから。」という形で、書いて答えなさい。

我にかえり、

から。

□(3) 「叔父さん」はどんな人だと想像されますか。次のようにまとめ
たとき、□に入るふさわしいことばを、「く人。」という形で、
二十字以内(句読点も字数に数えます)で書いて答えなさい。

くときどき自分の世界にとじこもってしまうが、

人。